

3月1日

れい  
礼

はい  
拝

ま ね  
招き の こと ば  
言葉

かい かい の 祈り

開会 の 祈り

しゆいの  
主の祈り

てん われ ちち  
天にまします我らの父よ

ねが  
願わくは

みな  
御名をあげめさせたまえ

つづ  
( 続く )

みくに き  
御国を来たらせたまえ

みこころ てん  
御心の天になるごとく

ち  
地にもなさせたまえ

つづ  
( 続く )

われ にちよう かに  
我らの日用の糧を

きよう あた  
今日も与えたまえ

つづ  
( 続く )

われ つみ おか もの  
我らに罪を犯す者を

われ ゆる  
我らが赦すごとく

われ つみ ゆる  
我らの罪をも赦したまえ

つづ  
( 続く )

われ                      ころ                      あ  
我らを試みに遭わせず

あく                      すぐ                      いだ  
悪より救い出したまえ

つづ  
( 続く )

くに ちから さか  
国と力と栄えとは

かぎ なんじ  
限りなく汝のものなればなり

アーメン

つ み こ く は く  
罪の告白の

か ん こ く  
勧告

つみ こくはく きとう  
罪の告白の祈禱

ばんぶつ つくぬし  
万物の造り主、

ひと  
すべての人の

さばぬし かみ  
裁き主であられる神よ。 (つづ  
続く)

わたし

私たちは、あなたの

せい

いまし

したが

聖なる戒めに従わず、

うしな

ひつじ

失われた羊のように

み まえ

まよ

い

御前から迷い出で、

つづ  
( 続く )

おも                      こと ば                      おこな  
思いと言葉と行いにおいて

つみ                      おか    み いか  
罪を犯し、あなたの御怒りを

まね  
招いたことを

ふか                      かな  
深く悲しんでおります。                      つづ  
( 続く )

あわ <sup>と</sup> 憐れみに富んでおられる <sup>ちち</sup> 父よ。

おか <sup>つみ</sup> 犯した罪を憎 <sup>にく</sup> み <sup>かな</sup> 悲しむ <sup>わたし</sup> 私たちに

あわ <sup>そそ</sup> 憐れみを注いでください。 <sup>つづ</sup> ( 続 く )

<sup>しゆ</sup>  
主イエス・キリストにおいて

<sup>わたし</sup> 私 <sup>ゆる</sup> たちを赦し、<sup>み</sup> <sup>たま</sup> 御霊によって、

<sup>う</sup> <sup>か</sup>  
生まれ変わらせ、

<sup>み</sup> <sup>な</sup> <sup>さか</sup>  
御名の栄えのために

<sup>い</sup> <sup>もの</sup>  
生きる者とならせてください。( <sup>つづ</sup> 続く )

<sup>しゆ</sup>主イエス・キリストの<sup>み</sup>御<sup>な</sup>名に

よって<sup>いの</sup>お祈りいたします。

アーメン

つ み ゆ る  
罪の赦しの

せ ん げ ん  
宣言

し へん か  
詩編歌42

わ ころ みた くず  
4. 我が心うちに 乱れ崩おる

とお ち しゆ おも い  
遠き地にありて 主を思い出ず

おおだき おと ふち  
大滝の音 淵にこだまし

くだ おおなみ わ うえ こ  
砕くる大波 我が上越えたり

(1/3)

ひねもす めぐ しゅ ま のぞ  
5. 終日、恵みの 主を待ち望む

わ いのち しゅ いの  
我が 命の主に 祈りささげん

いわ かみ なに てき  
岩なる神よ 何とて敵の

しいた なか す お たも  
虐げの中に 捨て置き給うや

6. わが<sup>あだ</sup>仇のそしり 我<sup>わ</sup>が<sup>ほねくだ</sup>骨砕く

「<sup>な</sup>汝が<sup>かみ</sup>神いずこ」と <sup>い</sup>言いつのるなり

我<sup>わ</sup>が<sup>たましい</sup>魂よ なんぞ<sup>うめ</sup>呻くや

<sup>かみ</sup>神を<sup>ま</sup>待ち<sup>のぞ</sup>望め 我<sup>わ</sup>が<sup>しゆ</sup>主を<sup>たた</sup>称えよ

(おわり)

ぼつ かい き とう  
牧会 祈 禱

# こども<sup>こ</sup>説教<sup>せつきょう</sup>

れいはい  
「礼拝<sup>れいはい</sup>ってなに？」

ヨハネの手紙<sup>てがみいち</sup> — 1章<sup>しょう</sup> 1～4節<sup>せつ</sup>

# カテキズム

とい  
問45 <sup>れいはい</sup> <sup>あつ</sup>  
礼拝に集まるのは、どうして

<sup>しゅう</sup>  
週 <sup>はじ</sup> <sup>にちよう</sup> <sup>び</sup>  
の初めの日曜日なのですか。

こたえ  
答 <sup>ひ</sup> <sup>ふつかつ</sup>  
その日にイエスさまが復活

されたからです。

かみ まいしゅう ひ  
神さまにまねかれ、毎週この日に

あつ  
集まることによって、

いま ふつかつ  
今も復活のイエスさまが

せいれい わたし とも  
聖霊において私たちと共にいて

かくしん  
くださることを確信させていただきます。

とい きょうかい れいはい  
問46 教会の礼拝で、

わたし なに  
私 たちは何をするのですか。

こたえ きょうかい れいはい わたし  
答 教会の礼拝で、私 たちは

かみ まじ かみ  
神さまとの交わり、神さまをあがめ、

かみ よろこ さんび  
神さまを喜び、賛美します。

せいしよろうどく    せつきよう

聖書朗読と説教をきき、

せいれいてん

聖礼典をおいわいします。

いの

さんびか    うた

また、お祈りをし、賛美歌を歌い、

しんこう

こくはく

けんきん

信仰を告白し、献金をささげて

きようかい

はたら

つか

教会の働きに仕えます。(おわり)

# ヨハネの手紙一 1章

3a わたしたちが<sup>み</sup>見、また<sup>き</sup>聞いたことを、  
あなたが<sup>つた</sup>たにも伝えるのは、  
あなたが<sup>まじ</sup>もわたしたちとの  
交わりを持つようになるためです。

(おわり)

いの

祈ってごらんわかるから

きみ かみ はな  
君は神さまにネ 話したことがあるかい？

こころ

心にあるまますを うち明けて

てん かみ

天の神さまはネ 君のこと何でも

きみ なん

わかっておられるんだ なん  
何でもね

だから<sup>そら</sup>空<sup>あお</sup> 仰いで <sup>かみ</sup>「神さま」と<sup>ひとこと</sup>一言

<sup>いの</sup>祈ってごらんよ わかるから

<sup>おがわ</sup>小川のほとりでも <sup>ひと</sup>人ごみの中<sup>なか</sup>でも

<sup>ひろ</sup>広い世界<sup>せかい</sup>の どこにいても

ほんとう かみ い  
本当の神さまは いまも生きておられ

いの こた  
お祈りに答えてくださる

(おわり)

きょうかい き てい

教会規定

せいじ き じゆん

政治規準

だい しょう

第7章

きょうかいはくいん

教会役員の本質

ほんしつ

だい じょう こうじょうてきさんしよく

第40条（恒常的三職）

きょうかい

教会の政治の

ぜんたい

全体は、

きょうり

教理・

きょうかい

教会

とうち

あい

わざ

みつ

な

統治・愛の業の三つから成っている。

ご じ しん きょうかい  
キリストは御自身の教会を

ととの しんやく じ だい  
整えるために、新約時代には、

きょうかい さんしよく さず  
教会に三職を授けられた。

み こと ば れいてん  
すなわち、御言葉と礼典をつかさどる

きょう し しよく む ち かいちようろう しよく む  
教師の職務・治会長老の職務、

およ しつ じ しよく む  
及び執事の職務である。

きょうかい こうじょうてき  
これらは教会において恒常的に

けいぞく つうじょう しよくむ  
継続されるべき通常の職務である。

だい じょう しよくむ けんい ごじしん  
第42条（職務の権威） 御自身の

せいらい みことば たみ  
聖霊と御言葉により、またその民の

ほうし しい おこな  
奉仕によって支配を行 うことが、

ふ へんてき      かつ こ      きょうかい  
普遍的かつ各個の教会における

こ ゆう      しよく む  
キリストの固有の職務である。

きょうかい      しよく む      けん い  
教会におけるすべての職務の権威は、

ゆ らい      しよく む  
キリストに由来し、職務そのものには

き ぞく      ゆ え      しよく む      つ      もの  
帰属しない故に、職務に就く者は、

た しや たい れいてきゆう い せい  
他のキリスト者に対して靈的優位性を

しゅちよう  
主張してはならない。

かれ ほう し しや で し す  
彼らは奉仕者、弟子、しもべに過ぎない。

(おわり)

# 使徒言行録6章<sup>しょう</sup>

- 1 そのころ、弟子の数が増えてきて、  
ギリシア語を話すユダヤ人から、  
ヘブライ語を話すユダヤ人に対して  
苦情が出た。

それは、<sup>ひ</sup> <sup>び</sup> 日々<sup>ぶんぱい</sup>の分配<sup>の</sup>ことで、

<sup>なか</sup> <sup>ま</sup> 仲間<sup>の</sup>のやもめ<sup>たち</sup>たちが

<sup>かる</sup> 軽<sup>ん</sup>じ<sup>ら</sup>れ<sup>て</sup>い<sup>た</sup>か<sup>ら</sup>で<sup>あ</sup>る。

2 <sup>にん</sup> <sup>で</sup> <sup>し</sup> そこで、12人は弟子<sup>を</sup>を

<sup>よ</sup> <sup>あつ</sup> <sup>い</sup> すべて呼び<sup>集</sup>めて<sup>言</sup>った。

「わたしたちが、<sup>かみ</sup>神の<sup>ことば</sup>言葉を

ないがしろにして、

<sup>しょくじ</sup>食事の<sup>せわ</sup>世話を<sup>この</sup>するのは好ましくない。

3 それで、<sup>きょうだい</sup>兄弟たち、

あなたがたの<sup>なか</sup>中から、

れい ち え み ひょうばん よ にん  
“靈”と知恵に満ちた評判の良い人を

ななにんえら  
七人選びなさい。

かれ しごと まか  
彼らにその仕事を任せよう。

いの みことば  
4 わたしたちは、祈りと御言葉の

ほう し せんねん  
奉仕に専念することになります。」

5 <sup>いちどう</sup>一同はこの<sup>ていあん</sup>提案に<sup>さんせい</sup>賛成し、

<sup>しんこう</sup>信仰と<sup>せいれい</sup>聖霊に<sup>み</sup>満ちている人<sup>にん</sup>ステファノと、

ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、

ティモン、パルメナ、アンティオキア

<sup>しゅつしん</sup>出身の<sup>かいしゅうしや</sup>改宗者ニコラオを<sup>えら</sup>選んで、

6 <sup>し</sup> <sup>と</sup>使徒たちの<sup>まえ</sup> <sup>た</sup>前に立たせた。

<sup>し</sup> <sup>と</sup>使徒たちは、<sup>いの</sup>祈って

<sup>かれ</sup> <sup>うえ</sup> <sup>て</sup> <sup>お</sup>彼らの上に手を置いた。

7 こうして、<sup>かみ</sup> <sup>ことば</sup>神の言葉はますます

ひろ で し かず  
広まり、弟子の数はエルサレムで

ひ じょう ふ  
非常に増えていき、

さい し おおぜい しんこう はい  
祭司も大勢この信仰に入った。

(おわり)

## 2. いざやともに

1. いざや<sup>とも</sup>共に <sup>こえ</sup>声うちあげて、

くきき<sup>み わざ</sup>御業 <sup>うた</sup>ほめ歌わまし

<sup>つく</sup>創りましたし <sup>あめ</sup>あめつちみな

<sup>かみ</sup>神によりて <sup>よろこ</sup>喜びあり

はは  
2. 母のむねに ありしときより、

ふ みち  
わが踏む道 さきわいたもう。

いま のち  
今も後も あだをふせぎ、

よ わざわ のぞ  
世の災い 除きたまわん。

3. <sup>まよ</sup>迷いを去り、 <sup>やす</sup>安きを <sup>あた</sup>与え、

<sup>つね</sup>常に <sup>めぐ</sup>恵み <sup>なぐさ</sup>慰めたまう。

<sup>ちち</sup>父なる <sup>かみ</sup>神 <sup>みこ</sup>御子、 <sup>み</sup>御 <sup>たま</sup>霊に、

<sup>よ</sup>代々 <sup>よ</sup>みいつと <sup>み</sup>御 <sup>さか</sup>栄えあれ。

アーメン

せつ  
説

きょう  
教

しんこう せいれい み ひと せんしゆつ  
「信仰と聖霊に満ちている人の選出」

つじ  
辻

ゆきひろぼく し  
幸宏牧師

# 教会の広がり

- ・主イエスの昇天後 120人 (1:15)
- ・ペトロの説教後 3000人(洗礼)(2:41)
  - ヘブライ語を話す人
  - ギリシヤ語を話す人(離散ユダヤ人)
- ・共同生活・一つにまとまっていた

# 教会に亀裂が生じる

- ・言葉、分配
- ・12使徒 サポートが行き届かない
- ・気配りする人が求められる

# 使徒たちの働き

- ・ 神の言葉の解き証し、祈り
  - 人手が足りない
  - 御言葉と祈りに専念

# “靈”とは

・“靈” 聖書卷頭凡例三(2)

・「聖靈」あるいは「神の靈」「主の靈」が意味されていると思われるところ

→ 主の働き人の第一の規準

# 神の働き人(第二の規準)

- ・「知恵」(3)、「信仰」(5)
- ・聖書の知識に長け、信仰の養いに与っている人

# 現在の教会役員

- ・ 牧師・長老・執事
- ・ 使徒の時代から次第に整う

# 教会規定（政治規準）

- ・教会役員：教理、教会統治、愛の業の3つ
  - ・キリストに由来する
- ・奉仕者はキリストの弟子・しもべにすぎない
  - 謙遜と遜りが求められる

# 按手（手を置く）

- 按手：神への奉仕のために聖別と任命の行為
- 主が必要な賜物をお与えくださる
- 主の御前に責任が伴う（誓約）

# 奉仕者の働き

- ・問題が解決へと向かう
- ・7人：ギリシヤ語に長けた人たち

# 主が私たちの必要を 満たしてください

- ・いま「該当者がいない」との嘆き
- 主に委ねて、祈り求める必要
- ・主の御業を信じることなく、  
あきらめるのは、人間的な罪

# 奉仕者が与えられることにより

- ・教会が一つとなりビジョンを持つ
- ・教会が主の恵みと栄光に包まれる
  - 主の栄光に守られ、成長する

# 392. 神の御声は

1. 神の御声は 昔のごと、

今なお人を 召させたもう、

「囚われし民 悩む者を

救うつかいの 世にはなきか」

こ や こ みち いち さと  
2. 小屋に小道に 市に里に

ひと こえ き  
人のもだえの 声は聞こゆ、

やみ ちから せま く  
「闇の力の 迫り来るに

う やぶ  
打ち破るべき つかいなきか」

3. <sup>かみ</sup>神よ、<sup>み こえ</sup>御声を <sup>き</sup>われら聞けり、

いずこへなりと <sup>おく</sup>送りたまえ、

<sup>ちから</sup>力は <sup>よわ</sup>弱く <sup>ち え</sup>知恵なけれど、

<sup>み むね</sup>御旨のままに <sup>もち たま</sup>用い給え。

4. やすきを、<sup>さち</sup>幸を <sup>ねが</sup>いま願わじ、

<sup>ちから</sup>力を、<sup>さい</sup>才を <sup>たの</sup>はや頼まじ、

<sup>かみ</sup>神の <sup>うつわ</sup>器と なさせたまえ、

みことかしこみ <sup>われ</sup>我らはゆかん  
アーメン

せい  
**聖**

さん  
**餐**

しき  
**式**

# 205. わが<sup>しゆ</sup>主よ　　今<sup>いま</sup>ここにて

1. わが<sup>しゆ</sup>主よ　　今<sup>いま</sup>ここにて

したしくまみえまつり、

かぎりなき<sup>さいわ</sup>幸いを

うくるこそうれしけれ

アーメン

けん  
献

きん  
金

かんしや ささ もの  
感謝の献げ物

にんい きようせい  
任意であり、強制ではありません

ほう  
報

こく  
告

# 本日の予定

- 定期小会・合同役員会 (pm1:30～)
- 夕拝 (pm5:00～)

# 今週の予定

- 祈りと学びの会（祈祷会）  
午前・夜 3月4日(水)
- 会堂掃除      第1週担当者

# 次主日の予定

- 礼 拝 am10:30 司式: 福田充男長老  
説教: 辻 幸宏牧師 奏楽: 辻三枝子姉

「知恵と“霊”によって語る」

- グループ別祈祷会
- せんげん台伝道所委員会 (pm1:30)
- 夕 拝 (pm5:00)

541. <sup>しょう</sup>頌 <sup>えい</sup>栄

<sup>ちち</sup>父、<sup>みこ</sup>御子、みたまの

おおみかみに、

ときわにたえせず、

みさかえあれ、みさかえあれ

アーメン

しゅく  
祝

ふく  
福

ア-メン さんしょう 三唱